

労働市場情勢指数(LMCI)

趙 玉亮

米国の失業率が低下を続ける一方、「雇用の質」を表す指標の回復はまちまちで、労働市場の改善についても評価が分かれている。こうした中、連邦準備理事会(FRB)は、労働市場の動向を示す総合的な指標として、労働市場情勢指数(Labor Market Conditions Index)を14年10月から毎月公表することとした。

LMCI はどのような指標

LMCI とは、失業や雇用など 19 の指標をもとに算出される、労働市場の全般的な状況を示す総合指数である。LMCI はゼロを上回ると雇用改善、下回ると雇用悪化を意味する(図表1)。イエレンFRB議長がジャクソンホールでの講演(14年8月)でLMCIに言及したことから、その

注目度が一気に高まった。

LMCI の課題と問題点

しかしながら、LMCI は開発されて間もないため、検討すべき課題も多い。

まず、LMCI のモデルやそれに組み込まれる指標の合理性には検討の余地がある。LMCI の開発者も、「LMCI は公式な統計」というより「スタッフの研究成果」と見なしている。実際、類似した総合指数は他にもあり、例えばカンザスシティ連銀は14年8月、24指標を用いて労働市場情勢指数を開発し公表したが、合理性に対しての検討の余地があるとして、市場関係者にそれほど注目されなかった。

また、毎月、19の指標が更新される度に、LMCI モデルは過去にさかのぼって全ての LMCI 結果を修正している点に注意する必要がある。例えば、10月公表した7、8、9月のLMCIは(2.7、2.0、2.5)であるのに対し、11月分でこの3ヶ月の数値は(3.2、2.7、4.0)であった。こうした修正の存在は市場関係者が利用する上での大きな留意点と言える。

なお、政策当局は、これまで失業率や非農業部門雇用者数などの個別指標の動向を追いながら、労働市場の好悪を判断してきた。一方、LMCI は実際の経済状況とどのように比較すればよいか、不明なところが多い。そのため、今のところLMCIは失業率などの個別指標を補完するための指標だと捉えてよいだろう。今後、政策当局が政策判断を行う際に、この指標をどのように利用するかについてはさらなるデータの蓄積を待つ必要がある。

図表1 LMCI の指標構成と推移

